

衆議院議員会館での被災地支援取組視察後
ぶら下がり会見

(平成28年3月1日(火) 13:35-13:40 於) 衆議院第2議員会館)

(問) 東日本大震災から間もなく5年となります。そういう中で、今日の行事に参加されて、どのような感想を持たれましたか。

(大島衆議院議長) 高木大臣は大臣としての感想がおありかと思えます。私は自民党の復興加速化本部の本部長をやって、皆さんと一緒に集中期間5年をやりました。つくづく思いますのは、岩手の場合は、先ほど伺ったら、特に水産及び水産加工物産業は8割ぐらいまで来ているということでした。皆さんの本当に必死な頑張り、もちろん国、県、市町村、そういう公の政策がもちろんそこにあるわけですが、何よりも被災地の、被災された皆さんの、復興するぞという、この気持ちと努力がそこまで来たのかなとも思います。

ただ、福島の場合は、今日のお店に水産物がやはり少ないですね。浜通り、福島の場合は復旧から復興への道のりの1年だと、このように私は見ておりましたし、このあんぽ柿は福島の名産でございます。5年前の発災のときは、秋に収穫時期に参りましたときに、せっかく頑張って作った柿の実がほったらかしにしなければならなかった。その農業者の悔しさ、思いというものを今ふと思い出しますし、そこから5年たって、このように名産のあんぽ柿が、このように頑張ってここまで来たなという思いもいたします。

福島の場合はまだまだ、これから双葉郡の復興、そして福島県全体の復興のために、正にこれから勝負だと思います。高木大臣のもと、あるいはまた環境省、エネ庁、東電はもちろんでございますが、県、市町村、そこに今度は被災された方々が、いよいよ解除された地域はふるさとをもう一度つくるんだという思いで、これからスタートされると思います。是非頑張っていただきたい。

そして何よりも、5年たっても、あのすさまじい災害のことを風化させてはいけません。この思いはオール日本として、改めて5年の節目を思い起こさなければならないし、この大災害というのは、日本という国を考えましたときに、他人ごとではないんだと、学ぶものを学んで、日本全体の問題として取り組まなければならない問題でもあると思います。

(高木復興大臣) まずは、今日、こうして衆議院の中で被災地の産品を売っていただくということをやっていただいて、大変有り難いと思います。

今、議長から風化という話が出ましたけれども、風化と同様に風評という問題も、これは大変厳しい状況で、私もこの間、フォー

リン・プレスセンターで外国人記者の方にしっかりと、福島のは食品は安全だということを申し上げましたけれども、こうしたフェアを通じて皆さん方にお伝えをいただいて、被災地のものがたくさん売れるということになってくれれば、大変有り難いと思います。

5年の集中復興期間が終わって、いよいよ復興・創生期間になります。それぞれまだ復興の状況は違いますが、いずれにしても、私もたびたび被災地に訪問させていただいて、地元の方が本当に一生懸命になって復興に取り組んでいらっしゃる姿を見て、今、復興大臣として非常に重い責任を持っていますので、しっかりとこれからも復興の加速化に向けて頑張りたいという思いを、今日、こうしたフェアに来て、議長と一緒に拝見をさせていただいて、更にその思いを強くさせていただきました。

(問) 先ほど議長もおっしゃっていましたが、水産物が少ないということについて。さっき販売スペースの前でもお話しされていたと思いますが、やはりまだ福島の沿岸部の方では漁業が試験操業という状態で、本格的な操業のめどが立っていないというような現状もある中で、議長はそのイカめしをお買いになったのでしょうか。

(大島衆議院議長) これは岩手県のイカめしです。こちらのあんぼ柿が福島のもの。先ほど大臣からも伺ったんですが、風評被害という問題もあるものですから、よほどしっかり慎重に試験操業をされて、そして、やはり漁業者の皆さんが今、歯を食いしばっているわけで、漁業者の皆さんが毎日のように漁をして、チェックして、そのことを市場が評価し、日本国民の皆さんが理解して、世界の人も理解していただくために今頑張っているわけで、いつの時点になったらそれが解けるかというのは、どうもいついつということをするときでもまだないということですが、いずれそういう努力が、早く実っていただくことを期待したいと思います。

(高木復興大臣) この牡蠣のしぐれ煮は岩手のものです。こちらは浪江の焼きそばで、B-1グランプリで優秀な成績をとったもので、買わせていただきました。

三陸は牡蠣の名産地ですけど、私は牡蠣が大好きで、行くたびに食べていますけれど、ここでも牡蠣を買わせていただきました。

(問) 先日もソウルで、東北の産品を販売する外務省主催のイベントが中止になってしまったという経緯もあって、特に、やはり水産物に対しての外国の方の理解というのは、まだまだ進んでいないと考えられますか。

(大島衆議院議長) あの被災は、直接的な被災は全部、海岸沿いです

ね。ですから、水産業の復興こそ、あの地域の復興のまず第一歩であることは間違いないわけですが、福島の皆さんの漁業者も頑張って努力していただいている。

福島の場合は、奥の方も、これもそうですが、桃も、りんごも、大変な御苦勞をされている。お米も今、徹底的な検査体制を取って、農産物の方は非常に評判が良くなってきました。水産物ですね。皆さんもどうぞ、召し上がってくださいね。よろしく願います。

(問) 議長、すみません。衆議院選挙制度についてお伺いしたいんですけれども。15年の試算によると、アダムズを導入した場合、岩手だとか福島の議席が減ると、そういう可能性がありますけれども、これから新しい5年を迎えて、復興のステージが次のステージに行くというときに、地元からはもしかすると不安の声もあるかもしれないという中で、その点についてはいかがお考えでしょうか。

(大島衆議院議長) 選挙制度で質問されるとは思いませんでしたが、この東日本大震災の復興ということは、どういう立場であれ、どういう環境であれ、安倍総理がお話ししておられるように、国政の最も大事としなければならない問題であるという、この認識のもとで党派を乗り越えてみんなで努力していただく。この姿勢が一番肝要かと思います。選挙制度と直接的に結びつけるよりは、まず、そこの基本をしっかりと踏まえて、みんなで力を合わせてやっていくことが大事だと思います。

(以 上)